

平成 22 年度 第 1 回英語学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時 : 平成 22 年 7 月 3 日 (月) 午後 1 時から午後 3 時 30 分まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 : 山本委員長、田中委員、小林委員、原田委員、小野委員、西納委員、山本委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

* 学士力の実現に求められる ICT 活用の検討について

今年度より当委員会では学生に学士力を身につけさせるための理想的な教育について検討することを目的とし、5 年先を見据えたモデルを 3 事例提示することが確認された。

ICT を活用した実践事例について、以下の内容について報告された。

- ・ 学生の現状を踏まえた授業実践事例
- ・ 研究事業及び授業実践にポイントをおいた実践活用事例とその波及効果、その他卒業研究・実習事前学習等の活用
- ・ ゼミ活動における共同作業による教材作成の事例
- ・ 卒業研究等における当事者研究のためのホームページ活用、実習報告会での活用等

- ・ 上記を受けて、英語教育における ICT 活用について、①情報の適正性を見極める力や情報活用の倫理等の涵養②学生自らが学習成果の報告を行う際に、よりわかりやすくリアルに伝えるための力③情報収集のツール、④学生のディスカッションの素材提供ツールとしての活用、⑤情報発信及び市民社会との交流のツールとして活用等の意見が出され、各委員の授業モデルを今後以下の視点で検討することにした。
- ・ 授業事例が学士力の到達目標のどの部分に特化しているかを明確にする。
- ・ 到達目標のどの部分を実現する授業(モデル)なのかを検討する。

* 『英語教育における情報教育』の修正

- ・ サイバーFD委員からの意見をもとに添付 ; 「英語教育における情報教育 (中間まとめ) 修正版」の下線部分のとおり修正した。
- ・ 修正にあたって、今後ますます情報倫理の徹底の必要性が高まることに留意する必要があることが確認された。

2. 次回までの宿題

- ・ 今回提示された事例(モデル)の具体的プログラム (授業シナリオ) を作成する。

II. 次回の開催日程

- ・ 事務局で各委員の日程調整した後に開催日を決定する。

英語教育における情報教育のガイドライン

【到達目標1】

情報倫理の重要性を理解した上で、英語学習に必要なICTを身につけている。

【到達度】

- ① 英語表現の検索、文献・資料の収集・理解にICTを利用できる。
- ② 英文の作成、編集、翻訳などにICTを利用できる。
- ③ 音声・画像データなどを通じて効果的に発信するために、ICTを利用できる。
- ④ 剽窃、盗用、発信・表現による文化摩擦などに配慮してICTを利用できる。

【教育内容・教育方法】

①～④は、検索・文章作成・通信のツールなどを教え、演習などの授業を通じて情報倫理に配慮した情報の収集・整理、文章作成、発信などを指導し、体験させる。

【到達度確認の測定手段】

①～④は、学習支援システムを利用し、自己評価、他者評価、小テストなどにより確認する。

【到達目標2】

英語による多様なコミュニケーションに必要なICTを身につけている。

【到達度】

- ① 英語による効果的な発信を行うためにICTを利用できる。
- ② 複数の相手と協働して協議・交渉・意見交換するためにICTを利用できる。

【教育内容・教育方法】

①と②は、電子メール、テレビ会議、学習支援システム、電子掲示板などの多様なツールの使い方を教え、演習を通じて、英語による発信や交渉・意見交換を体験させる。

【到達度確認の測定手段】

①と②は、情報支援システムを利用し、他者評価、学習ポートフォリオ、小テストにより確認する。